

西緑地が楽しくなる本

『タンポポ観察事典』

自然の観察事典

小田英智 構成・文 久保秀一 写真 借成社 1996年



春になりました。タンポポ、スマレ、菜の花・・・西緑地の野原も花いっぱいです。「このタンポポは今朝咲いたのね」「あ、こっちは咲いて二日目だ!」などとタンポポの花を見てあてられるようになったらすてきですね。タンポポの花は昼間は咲き夜は閉じるの繰り返しで、2～3日咲くそうです。『タンポポ観察事典』には初日咲き、二日目咲きと写真で載っていますので、簡単に見分けることができそうです。

タンポポは舌状花というたくさんの小花の集まりでできています。この小花を取り出して虫めがねで観察すると、1枚の舌のように長い花びらに、棒状のも

のがついています。これは5本の雄しべがくっついて筒状になったもので、中から雌しべが伸びてくるとか。1枚に見える花びらも、もとは5枚だった花びらがくっついたものだと思います。それが証拠に花びらの先を良く見ると5つにギザギザがあるのです。確かに・・・ありました!

毎年見慣れているタンポポ。でも、知らないことばかりだということに気づかされました。詳細な写真で、冬のタンポポのロゼット(地面に張り付いた葉)の様子、昆虫の訪れ、そして綿帽子になって新たな土地で芽生えるまでのあらゆる素顔を見せてくれます。最後には簡単な実験も紹介されています。どこにでもあるタンポポだから、気軽にやってみることもできそうです。

この春は、タンポポに目を向けてみませんか?